

国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)

平成 29 年度 事業実施計画 (案)

新規事業・取組 Iki・Tomo 推進事業 【 】 “ 推進事務局

< 方 針 >

平成 28 年度は、2020 年に向けた UNDB-J 及び構成団体の具体的な取組や目標をまとめたロードマップを作成した。平成 29 年度は、ロードマップに基づき、生物多様性の主流化に向けた取組を一層推進する。

< 全般事項 >

ロードマップに基づいた取組推進

年度当初に開催予定の委員会に向けて、ロードマップにおいて位置づけられている取組について、前年度の取組状況のフォローアップを行うとともに、必要な改訂を行う。その上で、ロードマップに基づいた取組を引き続き推進する。

2020 年を見据えた取組の検討

国連生物多様性の 10 年 (UNDB) の最終年である 2020 年を見据えた今後の具体的な取組について、UNDB-J の場を活用しながら、検討を始める。

< 個別事業 >

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

(1) MY 行動宣言 5 つのアクション・100 万人の MY 行動宣言

国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5 つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」について、主流化の取組みの初動となるツールとして活用を広く呼びかける。特に、様々な主体との連携による取組を進めることで、2020 年までに 100 万人の宣言を目指す。

- ・ 日本動物園水族館協会と IUCN-J の連携による動物園や水族館向けのシートを活用した普及啓発
- ・ 農水省と一次産業関係団体の連携による農林水産関係アクション版シートを活用した普及啓発
- ・ ウェブサイトでの MY 行動宣言
- ・ シートの裏面に企業等の生物多様性に関する取組を掲載するなど、企業等にタイアップを呼びかけ UNDB-J タイアップ事業

ぶ (2) 生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

国民一人ひとりが 5 つのアクションを理解し実践するため、全国各地から事例を収集してウェブサイトに掲載することと、各地の活動を応援することを目的に、企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の 5 つのアクションに即した活動を募集し表彰する「生物多様性アクション大賞 2017」を引き続き、UNDB-J 主催事業として実施。

2. セクター間の情報交換・連携促進

(1) 国連生物多様性の 10 年日本委員会 地域フォーラム

中間評価を踏まえて、各地域レベルでも UNDB-J 各委員、認定連携事業の認定団体、各地域で活動する様々な団体等の連携による取組を推進するため、各地域における関係者が一堂に会し、事例紹介やワークショップを行うフォーラムを地方事務所、自治体ネットワーク、EPO と連携して年 2 回開催（内 1 回は東京で開催）。

(2) 生物多様性全国ミーティング

- ・「第 7 回生物多様性全国ミーティング」を 9 月 16 日に神戸市にて開催。
- ・「生物多様性自治体ネットワーク定期総会」、「生物多様性エクスカージョン」等を開催する神戸市と連携。

3. 主流化に向けた活動プログラム

(1) 「生物多様性の本箱」の普及啓発

< 「生物多様性の本箱」300 館プロジェクト >

UNDB-J が推薦する子供向け図書「生物多様性の本箱」については、常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を 2020 年までに 300 館達成することを目指して（平成 29 年 3 月末現在、全国 126 の図書館・施設等において常設・企画展示を実施）さらなる普及啓発を図るための広報、様々なイベントへの出展等を実施。

< 本箱寄贈プロジェクト > 【日本自然保護協会等】**寄付協賛募集事業**

「生物多様性の本箱」を普及啓発施設、小・中学校、図書館等に寄贈し、持続可能な社会の未来を担う子どもたちへ、生物多様性の理解、普及啓発を推進するため、企業等に寄付協賛を呼びかける。

(2) 連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】

- ・ UNDB-J が推奨する連携事業を 9 月と 3 月に認定。加えて、今年度は「いきものにぎわい企業活動コンテスト」受賞事業についても認定（11 月）する仕組みを導入。
- ・ 認定団体については、全国ミーティングにおける表彰や取組を紹介。
- ・ ウェブサイトでの紹介、リーフレットを活用した各セクターへの働きかけ。
- ・ にじゅうまるプロジェクトについて、2020 年までに 2020 宣言を目指して、実施主体の国際自然保護連合日本委員会と連携して取り組む。

(3) グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】**寄付協賛募集事業**

- ・ グリーンウェイブを強化するため、企業等にも協力を呼びかけつつ、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会等の関係団体と連携して事業を実施。
- ・ 参加団体に参加証を発行するほか、全国一斉キャンペーン用のポスターを作成し、リーフレットとともに各セクターに働きかけ。
- ・ 千葉県内の企業、NPO 等の協力によるグリーンウェイブ・モデルキャンペーンを実施。2018～2020年には、生物多様性の主流化を促進する世界共通のキャンペーンとして定着するように、全国の自治体や企業・NPO 等と連携して推進体制を強化して実施。

(4) 生物多様性イベント支援ツール

生物多様性自治体ネットワーク構成自治体において生物多様性関連主催イベントを積極的に開催するよう呼びかけるとともに、同自治体向けに「地球いきもの応援団」の紹介や生物多様性キャラクター応援団「タヨちゃんサトくん」の着ぐるみ、「生物多様性の本箱」等の貸出、各種広報ツールの配布を実施。

4. 情報発信

(1) 平成 29 年 生物多様性関連情報 一斉報道発表

各セクター・委員において、5月22日の「国際生物多様性の日」周辺でのイベント行事開催の呼びかけ、および同時期に開催するイベント・行事とあわせて取りまとめた報道発表を実施。

(2) 生物多様性マガジン「Iki・Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を発行。

(3) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトの運営。連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体について取組や紹介文を掲載。

(4) facebook「Iki・Tomo パートナーズ」

- ・ Iki・Tomo パートナーズへの新たな参画を関係者へ呼びかけ。
- ・ 認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組を広く発信。

(5) UNDB-J ウェブサイト【日本自然保護協会】

UNDB-J の活動状況等の発信。イベント参加申込、MY 行動宣言・WEB からの宣言、生物多様性の本箱展示、キャラクター応援団等、実績掲載。

(6) イベント

グリーンチャレンジデー等へ UNDB-J の取組を発信する展示を出展。

(7) ユースの国際会議への派遣【国際自然保護連合日本委員会】

次世代育成の観点から、ユース（生物多様性わかものネットワーク）を生物多様性に関する国際会議に派遣し、UNDB-Jの取組を国際的に発信するとともに、その結果を国内ユースにも広く発信。

5. 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

地球いきもの応援団の全国ミーティング等での出演を通じた普及啓発。

(2) 生物多様性キャラクター応援団

- ・ キャラクター応援団への新たな入団を呼びかけ。
- ・ 全国ミーティング等の様々な機会を活用し、UNDB-Jキャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地のキャラクターが、今後協力して普及啓発に取り組むことを宣言する「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施。

6. 委員会等の運営

- ・ 委員会（6月）、幹事会（9月）、運営部会（6月、9月、2月）を開催。
- ・ 寄付金の活用についてはUNDB-J支援事業財務委員会（5月、2月）と連携するとともに、事業を進めるにあたって必要な資金調達に努める。

【参考】

(1) UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について

- ・ UNDB-J活動を拡大するため、UNDB-J構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置。
- ・ 事業の実施にあたっては、UNDB-J全体の事務局である環境省と連携しつつ実施。

(2) 寄付協賛募集事業について

- ・ 事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施。
- ・ 例えば、「生物多様性の本箱」を寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについて実施。

(3) UNDB-J タイアップ事業について

- ・ 企業等とUNDB-Jがタイアップし、生物多様性の普及啓発ツール・アイテムを作成。